125年生国光の開花

No. 107
2025. 5. 14

【今年のマメコバチの活動は如何に】

本年のふじの開花日は5月5日で、平年より2日早く、前年より8日遅くなりました。

受粉作業の省力化に大きな貢献をしているマメコバチですが、近年、その個体数が減少傾向にあり、特に昨年はかなり少ない状況でした。

ハチを増やすためには適切な管理が欠かせません。ハチの活動が終了した後の巣箱は、天敵類が侵入できないように農業用不織布などで被覆し、7月上旬頃に巣箱を回収し、家屋や小屋の軒下などにまとめて保管しましょう。その際、地面からできるだけ離し、巣筒の内部が過湿にならないよう注意しましょう。

マメコバチ

巣箱設置の様子

【ロボット草刈り機稼働中】

果樹栽培で利用できる数少ないスマート農業機械であるロボット草刈り機は、令和5年度や令和6年度に県が実施した補助事業を活用し導入された生産者もいらっしゃると思います。

当研究所では、令和2年から2社の草刈り機を導入し、実証試験を行いメリットやデメリットを明らかにしました。

今年も春から樹などにぶつかりながらも黙々と草を刈り、園地を綺麗に仕上げています。

黙々と草刈りするロボット草刈り機

【おうとう「ジュノハート」人手受粉で結実確保】

当研究所育成の「ジュノハート」は今年デビューから7年目、知名度は上がりつつあります。県南果樹部では、低樹高栽培技術や核割れ果対策のための試験を実施しています。

本年の開花は5月1日で平年と同日、前年より7日遅くなりました。高品質果生産のためには、まずは結実確保。そのための受粉作業を徹底しました。

この後は、適時に雨よけ被覆をし、適期収穫が重要となります。

職員総出による毛ばたき受粉作業

【りんごの新品種開発、そして、ニュージーランドＰＦＲとの共同研究】

当研究所の５つのミッションの中に「新品種の開発」があります。遺伝子解析技術を利用することにしていますが、まずは種子を得るための交配から始まります。ちなみに昨年度得られた種子は約 12,000 粒で、ジフィーを使って２月頃から播種しました。

また、５月８日、ニュージーランドの Plant＆Food Research の Jolon Dyer 博士と現在進めている共同研究の進捗状況と今後の計画について話し合いをしました。その後、黒石市内の焼肉店で親交を深めました。

実生の生育状況（５月）

ニュージーランドで行っていた新たな交配方法

【人事異動】

部長以上を紹介します。

- 所長
  福田典明
- 研究管理監
  （品種開発部長）
  前田一春
- 栽培部長
  後藤　聡
- 病害虫管理部長
  石栗陽一
- 県南果樹部長
  小笠原博幸

【新人自己紹介】

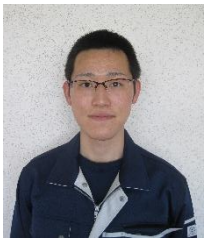
今年度、２名の新人が採用になり、栽培部に中嶋くるみ研究員、県南果樹部に工藤辰紘研究員が配属されました。

中嶋（なかじま）くるみ

今年度からりんご研究所栽培部に配属となりました、中嶋くるみと申します。

現在、果樹の生育調査に関することや気象観測に関することを担当しています。青森市出身で、弘前大学農学生命科学部を卒業しました。大学では日本在来メロンであるマクワやシロウリの研究を行っていました。

休日はドラマやアニメを鑑賞してリフレッシュしています。りんごの栽培や果樹の知識はまだまだ足りず、毎日が勉強の日々ですが、青森県のりんご産業の発展に関わることができるよう精進していきます。よろしくお願いします。



工藤辰紘（くどうよしひろ）

黒石市出身で、弘前大学大学院を修了し、今年度りんご研究所県南果樹部に採用されました。現在、特産果樹の病害防除技術の開発や新農薬の実用化に向けた試験を担当しています。

修士課程では植物に寄生するカビ（子のう菌類）の分類研究を行っており、カビを採集するために北海道から九州にかけて走りまわっていました。趣味は登山で、県南地域の山は登ったことがないので、登るのが楽しみです。果樹や病害虫に関する知識・経験はまだまだ足りませんが、皆様のお役に立てるよう精一杯努力したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

編集後記

りんご研究所ニュースの執筆・編集を担当することになりました。私事ですが、４年振り４度目、通算13年目（＋県南６年）になります。今年一年よろしくお願いします。（F）